

高橋先生に敬意を表して

Homage to Takahashi-Sensei

寺田 佳代 TERADA, Kayo

● 国際基督教大学
International Christian University

長年にわたりICU保健体育科教育にご貢献いただきました高橋伸先生が2023年度末で退職されるにあたり、僭越ながらそのご活躍の軌跡を謝辞とともにお伝えさせて頂ければと思います。

高橋伸先生は、1975年4月にICUの保健体育科に着任されました。当時先生は22歳だったと聞いております。そのため在職期間48年での退職となります。先生とお話をしている際に名前の挙がる「教え子」の方々のご年齢を聞いていつも驚いておりましたが、改めて48年とお聞きいたしますと、このように長きに亘り卒業生達と良好な関係を維持できているのは、昔も今も変わらず学生に慕われながら教壇に立たれていた事のあらわれであるのだと敬意の念を抱いております。

高橋先生はICUに着任される前からICUの保健体育に深く関わりを持っておられました。ICUの授業では、主にキャンプや野外教育を担当されている印象をお持ちの先生方も多いと思いますが、ICU創立時の保健体育科教員メンバーのお一人でおられた高橋和敏先生がICUご退職後に着任された東海大学のゼミ生として、ICUの保健体育の基盤となっておりますレクリエーション学を学生時代に学ばれました。また、ICU創立時の初代保健体育科科長の三隅達郎先生は、高橋先生がICUに着任された当時はまだ非常勤講師としてICUで教鞭をとられていたと聞いております。レクリエーションにも様々な分野がありますが、このように、ICU保健体育の原点とも言える先生方からご教授を受けられ、そして共に学生と過ごされた高橋先生は、ICU創立時の保健体育のスピ

リットを長年に亘って受け継いでこられたと言っても過言ではないと思います。

高橋先生がモットーとされている言葉に“God is first, you are second, I am the last”や“Others first”と言うフレーズがあります。これは三隅先生からいただいた言葉だそうですが、相手を尊重し大切にするというこの言葉に倣って、高橋先生は人と話す時にはまず相手の話を聞いて受け止める事、そして人から頼まれたことは行うように心掛けていると常日ごろから仰っています。これらの行動方針は他者を尊重することに派生する事かと思いますが、高橋先生は人と人とのつながりもとても大切にされます。

私が着任して最初に先生にご助言頂いた事は、研究室の扉をいつも開けておくことでした。勿論閉めておく必要がある場面はありますが、基本的には開けておき、いつでも学生や同僚が気軽に話しかけられる環境を作っておく為だとお教えいただきました。私が着任した当時の先生方は皆そうされている事に改めて気付いたのは、そのお声かけがあったからでした。些細なことに思われるかもしれませんが、この姿勢がコミュニケーションの原点であるようにも感じたことを今でも覚えています。

また、私がICUに着任した当時に感じた事の一つに保健体育科教員は、全員が共同体としてお互いを理解、信頼しあって学生に対応していることでした。それは、授業においても学生たちの安全管理が必須であり、また、そうでなければ実現が難しい課外活動を、私が着任する以前から企画実

践していた事からも垣間見れました。

保健体育科が主催した授業外の課外活動はいくつかありますが、一番初めに始められたのは学生野尻キャンプ（1956年）と聞いています。参加を希望する学生と共に全保健体育科教員が5泊6日程度（1日は車中泊）の野尻のキャンプ場で、水上プログラム（ヨット、ボート、カヌー、水上運動会など）やハイキング、そしてキャンプファイヤーを囲んだりする事を通じて学べる機会を提供していました。概ねバス2台（80名程度）を定員として引率していたと聞いています。1997年からは学生団体として続いており、高橋先生もかわり続けていらっしゃいます。また、冬には燕スキーキャンプも主催していました。まだスキーの人气が高まり始めの頃は、親御さんにとっても教員同伴のスキー実習は安心度が高く、多い時ではこちらもバス2台ほどの参加者であったようです。

その他にも駅伝大会を開催したり、ソフトボール大会も形式上は体育科主催ではありませんでしたが、実質体育科教員が全員参加して準備や当日の運営等を行っていました。駅伝大会とソフトボール大会は私が着任した後も続いており、私も担当したり参加したりさせて頂きました。特にソフトボール大会は2019年まで続けられており、今後も運営の主体は変わりますが引き続き開催をサポートしていきたいと考えております。

高橋先生の個人的な学生へのサービスプログラムとしては、ミッドナイトウォークを20年間開催されました。これは高橋先生が「足が棒になるぐらいの歩く体験を学生にさせてあげたい」という思いで発案し、1998年に学生たちと作り上げていった課外活動でした。初回は晴海ふ頭からICUまで約30kmのコースを歩きましたが、意外と楽にゴールする学生が多かったようで、翌年はデイズニーランドからICUまでの40kmのコースにし、それ以降もコースを変えながらほぼ40kmのコースを考案していらっしゃいました。一度は思い切って80kmコースを企画した事もあったようですが、流石にゴールできなかった学生も多かったようです。2014年までは先生が指揮を執

られて実施されており、その後は学生団体に引き継がれましたが、多いときには100人程度の参加があったと聞いています。また、ダイヤモンドリーグと名付けた、週に2日程度の早朝軟式野球大会を3年程度続けられたことも学生たちと共に活動することを大切にしていた先生ならではの事です。

大学全体のプログラムのお手伝いとしては2012年に行われたACUCA学生キャンプ実行委員長、ICUジュニア・キャンパスキャンプ キャンプ長、Global Leadership Study (GLS)、Body & Soulコーディネーター、薬物対策委員等もあり、学生課外活動の顧問としては、アーチェリー部とゴルフ部の面倒をよく見てられました。また、東京神学大学やルーテル学院大学の非常勤講師もされて、ICUとの梯になったり、学外ではYMCA・YWCAのキャンプや社会福祉法人興望館にも足を運ばれて子供達の教育に携わったり、そして保健体育科主任も5年程務められてICUの体育を受け継いでられました。

ご自身ではなるべく目立たないように教員生活を送ってきたと仰っていますが、ここに書ききれないほご活躍をされ、そして何より皆に「伸さん」と呼ばれて多くの卒業生達からも親しまれているのは、本当に学生の事を大切にし、誠実に対応して下さるそのお人柄故だと思っております。

高橋先生がご退職されることにより私が赴任した当時にいらっしゃった先生方がどなたもいらっしゃらなくなります。ここ数年は客員准教授として保健体育科を支え、そして私にとってもこれまでの保健体育科をよくご存じで何でも相談できる先生が不在になってしまう事は非常に心細く感じっていますが、高橋先生から教えて頂いた事を次の世代へと受け継いでいけたらと思っております。

高橋伸先生、長い間本当にありがとうございました。